特別講演 | 全診療科

2026年11月21日(土) 14:45 ~ 15:30 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

特別講演 4

司会：金高 賢悟（長崎大学病院　再生医療・外科診療センター / 胃・食道外科）

[SL-4] 日本近代西洋医学の誕生 ―ポンペとボードインそして彼らの弟子たち

*相川 忠臣[1] (1. 日本赤十字社長崎原爆病院)

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会

特別講演 | 全診療科

2026年11月21日(土) 14:45 ~ 15:30 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

特別講演 4

司会：金高 賢悟（長崎大学病院　再生医療・外科診療センター / 胃・食道外科）

[SL-4] 日本近代西洋医学の誕生 ―ポンペとボードインそして彼らの弟子たち

*相川 忠臣[1] (1. 日本赤十字社長崎原爆病院)

ペリー提督率いる米国艦隊が1853年浦賀に来航、黒船から打ち出される大砲の轟きにより、幕府は開国を迫られた。黒船を手にいれたい幕府に、オランダから派遣されたSoembing号艦長ファビウスは海軍設立を提言した。オランダが一隻軍艦を贈呈し、幕府は二隻軍艦を購入、海軍設立の為の海軍伝習派遣隊を1855年に送るという内容であった。ペルス・ライケン率いる第一次派遣隊はSoembing号（観光丸）を用いて操船を教えた。カッテンディーケ率いる第二次海軍伝習派遣隊が1857年Japan号（咸臨丸）に乗って来日した。ハルデスら艦船士官とポンペ軍医が加わり、操船に加え蒸気機関や医学に必要な広範な科学知識が幕臣と佐野常民ら諸藩の俊秀に教えられ1859年終了した。1860年、咸臨丸を提督（海軍伝習総督後軍艦奉行）木村摂津守喜毅、艦長（学生長後教授方頭取）勝海舟の指揮下、海軍伝習生が操縦し太平洋横断に成功した。福沢諭吉は木村提督の従者として参加した。

　ポンペは病院や医学校もなく、公衆衛生行政もない日本で、母校ユトレヒト陸軍軍医学校と同様の基礎医学、臨床医学、臨床実習と進む系統的な近代西洋医学教育を松本良順の助けを受けながら言葉の壁を乗り越えて実施した。将軍お目見え医師松本良順は、海軍伝習御用医として赴任した。ポンペは定評ある教科書から実践的内容を選抜したオランダ語講義ノートを作り、それを読み上げ、説明を加えて通詞が訳した、科目終了時にノートは良順に渡され、初期は良順や司馬凌海により、後期は佐藤尚中と弟子達により翻訳された。1861年、124ベッドの日本最初の西洋式病院、養生所（頭取良順）が開院し、臨床実習が行われた。天然痘を予防する種痘を普及し、米艦入港後のコレラの治療を行った。1862年頭取は良順に代わり八木称平が就任した。10月末全課程終了、ポンペはボードインに引き継ぎ帰国した。ボードインはユトレヒト陸軍軍医学校に15年間務めた練達の教官で眼科を得意とした。内科の臓器別講義、泌尿科学、婦人科学等を長崎と大坂医学校で教え、大学東校で最新の神経生理学を講義した。彼の弟子相良知安と長与専斎によりオランダ式の公衆衛生行政が明治維新に成立した。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会